

## 令和7年度奥州市病院事業報告書

### 1 概況

#### (1) 総括事項

##### ア 病院事業全体としての状況

令和7年度の病院事業は、「奥州市立病院・診療所経営強化プラン」を基に、5つの市立医療施設がそれぞれの強みを生かしながら、施設間連携の強化を進めるとともに、プランの実効性を高めるため、各施設で重点取組項目及び具体的目標を設定し、進捗管理のもと経営改善に取り組みました。前年度と比較して外来患者数は減少しましたが、入院患者数やリハビリテーション件数の増加などにより、医業収益は増収となりました。しかし、人件費の上昇や物価高騰などの影響で医業費用が増加し、損失額は前年度に比べ縮小しているものの純損益は依然マイナスとなり、引き続き経営の健全化に向けた取組の強化が求められる状況です。

医師数については、常勤医師が総合水沢病院で2人減、まごころ病院で1人増、会計年度任用職員医師が総合水沢病院で1人増となり、全体としては前年度と同じ26人となりました。

経営状況については、入院患者数は35,007人（前年度比2,186人増）、外来患者数（訪問看護を除く。）は110,068人（同6,383人減）となっており、一日当たりの平均患者数は入院で95.9人（前年度89.9人）、外来456.7人（同481.2人）となりました。一般病床利用率は46.4%（休床分を除いた稼働病床により算出した場合は59.2%）で、前年度の42.4%（同55.5%）から4.0ポイント（同3.7ポイント）の増となっています。

収益的収入及び支出（税抜）については、医業収益が2,837,456,430円、医業外収益が1,396,878,408円、訪問看護事業収益が55,997,254円、訪問看護事業外収益が287,602円、このほか特別利益が615,735円で、病院事業収益総計は4,291,235,429円となりました。

支出については、医業費用が4,516,367,925円、医業外費用が157,426,345円、訪問看護事業費用が81,109,070円、このほか特別損失が4,006,998円で、病院事業費用総額は4,758,910,338円となりました。

この結果、医業収支で1,678,911,495円の損失、経常収支で464,283,646円の損失となり、特別損益を含めた病院事業収支における純損益は467,674,909円の純損失となりました。

また、資本的収入及び支出（税込）については、収入は283,075,732円、支出は467,029,321円となり、収入が支出に対して不足する額は過年度分損益勘定留保資金で補てんしました。

##### イ 医療機関ごとの状況

###### (ア) 総合水沢病院

医師数は常勤医師が2人減、会計年度任用職員医師が1人増となり、全体としては前年

度より 1 人減の 13 人となっています。入院患者数は 21,758 人で前年度と比較して 2,522 人 (13.1%) の増となり、外来患者数 (訪問看護を除く。) は 51,722 人で前年度と比較して 4,771 人 (8.4%) の減となりました。訪問看護は、利用者数が 5,819 人となっています。

収益的収入 (税抜) については、医業収益が 1,728,647,259 円、医業外収益が 752,399,712 円、訪問看護事業収益が 49,733,945 円、訪問看護事業外収益が 278,532 円、このほか特別利益が 2 円で、収益総額は 2,531,059,450 円となりました。

収益的支出 (税抜) においては、医業費用が 2,746,066,188 円、医業外費用が 99,370,502 円、訪問看護事業費用が 65,146,943 円、このほか特別損失が 952,232 円で、支出総額は 2,911,535,865 円となりました。

この結果、医業収支では 1,017,418,929 円の損失、経常収支では 379,524,185 円の損失となり、特別損益を含めた純損益では 380,476,415 円の純損失となりました。

#### (イ) まごころ病院

医師数は前年度より 1 人増の常勤医師 10 人となっています。入院患者数は 12,284 人で前年度と比較して 235 人 (1.9%) の減となり、外来患者数 (訪問看護を除く。) は 37,501 人で前年度と比較して 1,122 人 (2.9%) の減となりました。訪問看護は、利用者数が 928 人となっています。

収益的収入 (税抜) については、医業収益が 826,654,227 円、医業外収益が 253,107,667 円、訪問看護事業収益が 6,263,309 円、訪問看護事業外収益が 9,070 円、このほか特別利益が 612,516 円で、収益総額は 1,086,646,789 円となりました。

収益的支出 (税抜) においては、医業費用が 1,117,271,428 円、医業外費用が 31,796,622 円、訪問看護事業費用が 15,962,127 円、このほか特別損失が 2,563,515 円で、支出総額は 1,167,593,692 円となりました。

この結果、医業収支では 290,617,201 円の損失、経常収支では 78,995,904 円の損失となり、特別損益を含めた純損益では 80,946,903 円の純損失となりました。

#### (ウ) 前沢診療所

医師数は前年度と同数の常勤医師 1 人となっています。外来患者数は 8,660 人で前年度と比較して 157 人 (1.8%) の増となりました。なお、入院については平成 26 年 8 月から引き続き休止しています。

収益的収入 (税抜) については、医業収益が 91,865,536 円、医業外収益が 109,542,250 円で、収益総額は 201,407,786 円となりました。

収益的支出 (税抜) においては、医業費用が 199,714,440 円、医業外費用が 11,636,730 円、このほか特別損失が 213,944 円で、支出総額は 211,565,114 円となりました。

この結果、医業収支では 107,848,904 円の損失、経常収支では 9,943,384 円の損失となり、特別損益を含めた純損益では 10,157,328 円の純損失となりました。

(エ) 衣川診療所

医師数は前年度と同数の常勤医師 1 人となっています。入院患者数は 965 人で前年度と比較して 101 人 (9.5%) の減となり、外来患者数は 7,212 人で前年度と比較して 641 人 (8.2%) の減となりました。

収益的収入 (税抜) については、医業収益が 126,124,443 円、医業外収益が 206,166,894 円、収益総額は 332,291,337 円となりました。

収益的支出 (税抜) においては、医業費用が 320,252,786 円、医業外費用が 12,101,365 円、このほか特別損失が 242,371 円で、支出総額は 332,596,522 円となりました。

この結果、医業収支では 194,128,343 円の損失、経常収支では 62,814 円の損失となり、特別損益を含めた純損益では 305,185 円の純損失となりました。

(オ) 衣川歯科診療所

医師数は前年度と同数の常勤医師 1 人となっています。外来患者数は 4,973 人で前年度と比較して 6 人 (0.1%) の減となりました。

収益的収入 (税抜) については、医業収益が 57,952,050 円、医業外収益が 32,164,885 円、このほか特別利益が 3,217 円で、収益総額は 90,120,152 円となりました。

収益的支出 (税抜) においては、医業費用が 83,835,128 円、医業外費用が 2,039,166 円、このほか特別損失が 34,936 円で、支出総額は 85,909,230 円となりました。

この結果、医業収支では 25,883,078 円の損失、経常収支では 4,242,641 円の利益となり、特別損益を含めた純損益では 4,210,922 円の純利益となりました。

(2) 経営指標に関する事項

令和 7 年度決算における経営成績について、経営の健全性を示す経常収支比率は、前年度比 3.3 ポイント増の 90.2% で、健全経営の水準とされる 100% を下回りました。また、医業活動から生じる医業費用に対する医業収益の割合を示す修正医業収支比率も、58.0% と 100% を大きく下回り、医業活動においても赤字となっています。

病院の施設が有効に活用されているかを示す病床利用率は、前年度比 4.0 ポイント増の 46.4% となりました。総合水沢病院では効率的な医療体制の確保を目的として病床数を 10 床削減したほか、整形外科常勤医師の着任により入院患者数が増加したことにより、病床利用率は改善傾向にあります。

赤字体質からの脱却と病床利用率の更なる向上を目指し、「奥州市立病院・診療所経営強化プラン」を基に、引き続き経営改善に取り組んでまいります。

〈経営指標の推移〉

ア 経常収支比率【(経常収益／経常費用) ×100】

|         | R 7    | R 6    | R 5    | R 4    | R 3    |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 総合水沢病院  | 87.0%  | 80.8%  | 88.9%  | 134.6% | 129.8% |
| まごころ病院  | 93.2%  | 94.1%  | 91.5%  | 97.6%  | 92.7%  |
| 前沢診療所   | 95.3%  | 93.4%  | 108.3% | 110.6% | 102.0% |
| 衣川診療所   | 100.0% | 101.0% | 95.6%  | 100.7% | 95.3%  |
| 衣川歯科診療所 | 104.9% | 106.9% | 124.4% | 120.7% | 95.1%  |
| 医療局全体   | 90.2%  | 86.9%  | 91.7%  | 121.0% | 115.7% |

イ 修正医業収支比率【(医業収益－他会計負担金)／(医業費用) ×100】

|         | R 7   | R 6   | R 5   | R 4   | R 3   |
|---------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 総合水沢病院  | 58.1% | 56.6% | 55.0% | 65.3% | 56.3% |
| まごころ病院  | 70.0% | 71.5% | 70.7% | 70.3% | 68.8% |
| 前沢診療所   | 38.5% | 37.6% | 40.7% | 38.5% | 33.4% |
| 衣川診療所   | 34.7% | 36.2% | 49.0% | 47.8% | 47.8% |
| 衣川歯科診療所 | 52.7% | 55.3% | 56.2% | 54.3% | 49.5% |
| 医療局全体   | 58.0% | 57.4% | 57.6% | 63.4% | 56.9% |

※医業収益には訪問看護事業収益を、医業費用には訪問看護事業費用をそれぞれ含めて算出している（令和6年度より変更。令和5年度以前は含めずに算出。）。

ウ 病床利用率【(年延入院患者数／年延病床数) ×100】

|         | R 7              | R 6              | R 5              | R 4              | R 3              |
|---------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|
| 総合水沢病院  | 42.6%<br>〔62.7%〕 | 36.3%<br>〔55.5%〕 | 31.0%<br>〔47.4%〕 | 27.7%<br>〔42.3%〕 | 33.0%<br>〔50.3%〕 |
| まごころ病院  | 70.1%            | 71.5%            | 66.2%            | 67.4%            | 66.6%            |
| 前沢診療所   | (休床)             | (休床)             | (休床)             | (休床)             | (休床)             |
| 衣川診療所   | 13.9%            | 15.4%            | 23.3%            | 20.6%            | 24.3%            |
| 衣川歯科診療所 | —                | —                | —                | —                | —                |
| 医療局全体   | 46.4%<br>〔59.2%〕 | 42.4%<br>〔55.5%〕 | 38.3%<br>〔50.1%〕 | 36.1%<br>〔47.2%〕 | 39.8%<br>〔52.1%〕 |

※病床利用率は感染症病床を除く一般病床利用率を示す。

※下段の〔 〕書は、一般病床のうち休床分を除いた稼働病床により算出した数値である。

※前沢診療所は全床を休床としているため、医療局全体の病床利用率の算出から除外している。

※総合水沢病院の令和7年9月25日以降の病床数は、一般病床145床のうち休床分から削減した10床を差し引いて算出している。